

亀山市議会議長 岡本 公秀 様

調 査 研 究 報 告 書

会 派 名	結
報 告 議 員 名	鈴木 達夫、森 英之、草川 卓也
調 査 日	令和6年10月30日、31日
調 査 目 的 等	産業分野における官民連携について ○長野県松本市 松本クリーンセンター ○エア・ウォーター株式会社松本研究所及びReCO2 STATION
<p>【目的】</p> <p>1 松本市環境・エネルギー課への訪問の目的について</p> <p>(1) 松本市の脱炭素への取組の中で、亀山の次期ゴミ処理施設建設に際し、取り組まなければならない案件や留意しなければならない視点を確認する。</p> <p>(2) ストーカ式で留意しなければならない点を確認する。</p> <p>【概要】</p> <p>1 松本市（松本市役所）</p> <p>テーマ「脱炭素への取組みについて」 環境・地域エネルギー課</p> <p>(1) 松本市の主な取組と会派としての注目点</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 市長の熱い思いから「松本市ゼロカーボン実現条例」を制定した。</p> <p>理念条例とは言え、実現計画やそれに関わる事業に対する多くの補助金制度も展開している。必要な政策や事業をより重厚でスピーディに展開するために理念条例を制定するといった目論見が必要である。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 官民連携による「松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社」の設立</p> <p>松本市、民間事業者の枠を超え、迅速かつ強力に事業を先導、展開し公益性を確保し、脱炭素を事業化している。事業の利益配分をすることで好循環を生むことを目指す。</p> <p>「脱炭素を大きな財源とする」「民間主体とし議会の決定を要しない体制づくり」といった政策統括部長の発言が特に印象的であった。</p> <p>(2) 松本クリーンセンター</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 溶融処理からストーカ式に変更し設備更新をした。</p> <p>長期に渡って議論を重ね、未だ多くの懸案を抱えている。その中であって特に問題な点は「最終処分場」の場所と民間委託にどれほど委ねるべきかの結論が出ていない点であると感じた。</p> <p>亀山市もまさに同じような経緯を予定するならば、溶融処理からストーカ式へ最終処分場に関して結論を出した中で基本構想を立ち上げるべきである。</p> <p>私見を言うならば、スペース的に、市民感情等を鑑みれば、高度な処分方法が見出されないならば、概ね民間委託が適切と考える。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ ストーカ式では燃焼の均一化のため、攪拌作業に多くの場所と設備費用を要する。攪拌作業、工程の見直しをすればもっと効率的、効果的、コストダウンは図れるはずである。</p>	

(続紙)

【目的】

1 エア・ウォーター株式会社視察訪問の目的について

(1) 亀山市が目指す次期ゴミ処理施設とエア・ウォーター株式会社とのコラボ、タイアップの可能性の模索

—ゴミをエネルギーに変え、官民連携による次世代型の処理施設の実現—

(2) 亀山式農業への転換・加工食品や商品開発の道を探る

—農が持つ多面的機能を健康都市ならでの展開に—

(3) 健康都市・亀山を中部圏の拠点に

—亀山に行けば健康、活力、生きがいの体験ができる拠点づくりに
様々なコミュニティ・ビジネスへの展開に—

【概要】

1 エア・ウォーター株式会社 松本研究所

松本市役所の研修を終え、翌日10時より「地球の恵みファーム松本」にて研修及び現地見学を行った。

(1) 亀山市・次期ゴミ処理施設への関連、関わりについて

二酸化炭素回収装置、メタン発酵装置については活用の可能性は十分あり、また回収された二酸化炭素は有料にてエア・ウォーター株式会社に売却できることを確認した。

亀山市の場合、一般廃棄物の約40%を占める食品残渣や紙類の有効活用が必要とされるが、エア・ウォーター株式会社の場合、食品廃棄物の利活用は事業所から排出される一定規格の廃棄物を利用し、農業用エネルギーに転換している。発酵過程の均一化や好気性発酵を狙ったものだが、嫌気性発酵を阻止し好気性発酵を促す副資材や発酵工程の見直し等で良質なエネルギーを産んでいる先進地があるため、研究が必要である。総じて、関連や関わりは大きく期待できる。

(2) 亀山式農業、加工、商品開発 「農」が持つ多面的機能への展開

エア・ウォーター株式会社は驚くほど、多くの農産物の商品化や流通に大きく関与している。生産技術はもとより、栽培環境の整備、保存技術、計画生産や農福連携体制等があり、スタートからの連携、保証等をもってすれば、新規農業就労や新たな展開も期待できる。行政がどんな役割を果たすか本気度が試される。

エア・ウォーター株式会社が進めている「陸上養殖プラント」は中規模投資で採算を合わせることでできる新たなスタイルのビジネスと考える。交通の拠点性を持つ亀山市においての官民連携による先駆的取組に期待したい。

(3) 健康都市・亀山をコミュニティビジネスに

エア・ウォーター株式会社は「地球環境」と新たに「ウェルネス（健やかな暮らし）」を成長軸に定めヘルス&セーフティやアグリフーズを事業領域として展開している。

現在ではヘルス事業を大阪や神戸のポートピアで展開し、医療館を軸に医療特区にして地域医療やヘルス事業を行っている。

訪問時には詳しい説明を受けられなかったが、さらにウェルネス事業の展開に注目したいし、亀山にとって必要な視点である。

(続紙)

【所感】

・松本クリーンセンターから排出される焼却灰のうち、塩尻市と朝日村の燃えるごみに応じた量が埋め立てられる。平成17年度から令和15年度まで当面の間、最終処分場が使用できることもあり、新しいゴミ処理施設も従来と同じ全連続燃焼式焼却炉（ストーカ式）を採用することになった大きな理由の一つになったのではないかと感じた。

・亀山市の焼却施設は、ストーカ式を検討する余地は十分にある。

・熱源や排出物を活用したエネルギー循環型の事業を展開され、地球にやさしく、永続的に事業を行うことに取り組み、社会貢献に寄与することを考えられた素晴らしい事業所であった。

・エア・ウォーター株式会社は、亀山・関テクノヒルズにて産業ガス事業を行なっている。これらの技術を亀山市ならではの事業に展開してもらえると有り難い。健康都市として取り組む事業に関わるような事業を亀山市に誘致できないかと感じた。